



## CRÉDIT AGRICOLE S.A.

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2015 年度第 2 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2015 年 8 月 4 日 モンレージュ

### 2015 年度第 2 四半期及び上半期業績結果

全ての事業部門で力強い事業実績

依然として困難な経済環境下にあっても堅調な業績

確認された強固な財務構造

#### クレディ・アグリコル・グループ\*

2015 年度第 2 四半期純利益グループ帰属分: 15 億ユーロ (2014 年度第 2 四半期は 7 億 8,500 万ユーロ)

2015 年度上半期純利益グループ帰属分: 27 億 2,800 万ユーロ (2014 年度上半期は 20 億 3,700 万ユーロ)

完全適用後 CET1 レシオ: 13.2% (+90bp/2014 年 6 月)

\* クレディ・アグリコル S.A. と地域銀行の 100%。

#### クレディ・アグリコル S.A.

事業部門収益: 前年同期比+5.7%\*

事業部門の営業総利益: 前年同期比+6.8%\*

事業部門のリスク関連費用: 前年同期比-27.6%\*

#### 特殊要因の影響

- Switch の発動: 純利益グループ帰属分で+8,000 万ユーロ
- 訴訟に関する追加引当金: -3 億 5,000 万ユーロ
- 発行体スプレッド/DVA/CPM: 純利益グループ帰属分で+2 億ユーロ

純利益グループ帰属分: 9 億 2,000 万ユーロ

基礎純利益グループ帰属分: 9 億 8,200 万ユーロ

完全適用後 CET 1 レシオ: 10.2% (+30bp/2014 年 6 月)

\* 特殊要因について修正再表示。

## クレディ・アグリコル・グループ

クレディ・アグリコル・グループの 2015 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分は、15 億ユーロとなりました。これは、ポルトガルの銀行 BES への出資持分の減損による影響を受けた 2014 年度第 2 四半期から大幅増となります。2015 年度上半期の純利益グループ帰属分は、2014 年度上半期比 33.9%増の 27 億 2,800 万ユーロに達しました。

クレディ・アグリコル S.A.の会長ジャン・マリ・サンデルにとって、これらは好業績といえるものです。クレディ・アグリコル・グループの全ての事業部門で素晴らしい実績が挙げられていることは、昨年発表された中期計画に盛り込まれた各種の施策が妥当であったことを裏付けるものです。

クレディ・アグリコル S.A.の CEO フィリップ・ブラサクにとって、こうした堅調な業績は、ジャン・ポール・シフレとそのチームによる多大な努力の賜物です。この強固な基盤に立ち、フィリップ・ブラサクとザビエル・ムスカの下、新しい経営陣は、クレディ・アグリコルをさらに発展させ、有用性、力強さ、持続的な業績といったクレディ・アグリコルの価値を実現させることができるでしょう。

こうした健全な業績は、全ての事業部門の力強い実績を反映するものです。

リテール・バンキング部門では、2014 年 6 月末以降、地域銀行が 23 万件の新規(正味)要求払預金口座(を開設し、また、LCL は当年度初頭以降に約 7 万件を開設しました。フランス国内にある当グループの 9,000 店の支店を通じたローン残高は、前年同期比 2.2%増の 5,000 億ユーロに達し、住宅ローンがそのけん引役を果たしました。同じ傾向は、イタリア子会社のカリパルマに見られました。オン・バランスシート顧客預かり資産も、特に要求払預金(地域銀行と LCL が+13.2%、カリパルマが+11%)を中心に急増(+4.0%)しました。

資産管理/保険/プライベート・バンキング部門では、資金流入額(純額)が 2015 年度上半期に 530 億ユーロに達し、全ての顧客セグメント(リテール顧客と法人顧客、フランス国内と海外)がこの業績にプラスに寄与しました。富裕層の個人顧客を対象に数々の革新的な新規サービスが導入され、また、ビジネス顧客と個人事業主を対象とした団体健康保険及び死亡・高度障害保険の展開が続けられました。

ファイナンス事業部門(ネットワークを除く)も好調で、消費者ローンの組成(2015 年度第 2 四半期は 87 億ユーロ)は 2014 年度第 2 四半期比で 13.7%を増加し、また、自動車ローン提携事業の残高も前年同期比で 10%増加しました。クレディ・アグリコル CIB は、航空機ファイナンスで世界第 1 位の座を維持し、2015 年ユーロマネー・アワード・フォー・エクセレンスにおいて「ベスト・インフラストラクチャ・ハウス」に選ばれました。また、グループ子会社とのさまざまな取引に携わりました。

地域銀行は、以下に説明する Switch 発動の影響(税引き後で-1 億 700 万ユーロ)の控除後で、当四半期に 8 億 1,100 万ユーロの純利益グループ帰属分を計上しました。地域銀行の上り調子の営業活動は、その収益の増加(1.9%増。又は、住宅購入貯蓄プラン引当金に対する費用計上を除くと 2.6%増)に反映されました。手数料収入は、保険が寄与して 4.7%増加し、また、金利マージン(住宅購入貯蓄プランを除くと+1.4%)は高水準の早期返済違約金によって支えられました。営業費用は安定的に推移し(+0.4%)、不良債権から生じるリスク関連費用は 2.9%低下しました。当年度上半期の地域銀行の純利益グループ帰属分は、総額 16 億 100 万ユーロを記録しました。

2015 年度第 2 四半期のクレディ・アグリコル・グループの財務構造は、引き続き堅固なものでした。

クレディ・アグリコル・グループの流動性ポジションは安定的でした。2015年6月30日現在、当グループのバランスシート上の現金は総額1兆410億ユーロに達し、また、長期の利用可能資金に対する長期の資金調達超過額は1,030億ユーロでした。流動性準備金は、2015年6月30日現在で2,470億ユーロとなり、総短期債務を2倍以上カバーしました。当グループ及びクレディ・アグリコル S.A.のLCRレシオは、2015年6月末現在で110%を超えました。

2015年度上半期に、クレディ・アグリコル・グループの主な発行体は、市場と支店ネットワークにおいてシニア債とTier 2によって188億ユーロ相当額を調達し、また、クレディ・アグリコル S.A.は当年度に関しては、中・長期債市場発行プログラムで計画された100億ユーロのうち既に80億ユーロを発行しました。

2015年6月30日現在、クレディ・アグリコル・グループのバーゼル3完全適用後CET1レシオは13.2%となっており(2014年6月末と比べて90ベース・ポイントの上昇)、当グループは欧州で自己資本比率が最も高い銀行の1つに数えられます。当グループは、MRELレシオ及びTLACレシオの点で好ましい状況にあります。適格シニア債を除くMRELレシオは、バランスシートサイズの厳格な管理によって当四半期に10ベース・ポイント改善して7.8%<sup>1</sup>となり、TLACレシオは19.1%(シニア債を除く)と安定しました。

欧州委員会が採択した委任法令に基づくレパレッジ・レシオは、2014年末現在の5.2%から5.4%へと上昇しました。

### クレディ・アグリコル S.A.

2015年度第2四半期及び上半期の財務諸表を検討するため、ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が2015年8月3日に開かれました。

2015年度第2四半期の純利益グループ帰属分は、ポルトガルの銀行BESへの出資持分の減損の影響を受けた2014年度第2四半期をはるかに上回る9億2,000万ユーロでした。当四半期に計上された特殊要因を除くと、基礎純利益グループ帰属分は9億8,200万ユーロでした。特殊要因について修正再表示した事業部門のみを考慮すると、純利益グループ帰属分は6.2%の増加となりました。

この非常に健全な利益水準は、全ての事業部門での優秀な業績を反映するものです。たとえば、当四半期の事業部門の純利益(特殊要因に関して修正再表示後)は、資産管理と保険に加えて法人営業及び投資銀行部門にけん引され、前年同期比5.7%の増加となりました。事業部門の営業費用の増加は、活発な活動を背景にしながらも抑制を保ち、為替効果を除くと+2.7%の増加でした。

この実績を支えたもう1つの要素は、不良債権に関連するリスク関連費用の一層の低減であり、これは、年換算では2015年度第2四半期に残高の39ベース・ポイントへと低下し、前年同期比では13ベース・ポイント改善しました。同じ傾向は、大半の事業部門で見られました。すなわち、LCL(2014年度第2四半期の23ベース・ポイントに対して6ベース・ポイント)、主にアゴス・デュカトのリスク関連費用の持続的低下(-7,100万ユーロ。前年同期比52%減)による消費者金融(256ベース・ポイ

---

<sup>1</sup> 規制案に関するクレディ・アグリコル S.A.の最新の理解に基づく計算。

ントに対して 184 ベーシス・ポイント)、及び法人営業及び投資銀行部門(-3,400 万ユーロ)です。

但し、リスク関連費用は 2 つの顕著な要因から影響を受けました。

Switch 保証(地域銀行及びクレディ・アグリコル・アシュアランスに対するクレディ・アグリコル S.A.の持分に由来するブルーデンス要件をカバーすることを意図したものは、2015 年度第 2 四半期に初めて発動されました。この発動は、上述の 2 社に対する持分の持分法適用価額の総額に、四半期ベースで低下が見られた場合に行われます。2015 年度第 2 四半期に地域銀行及びクレディ・アグリコル・アシュアランスによって計上された 5 億 5,400 万ユーロのプラスの業績は、CET1 レシオの計算で用いられた AFS 証券ポートフォリオの含み益の低下分を十分に相殺しませんでした。7 億 6,100 万ユーロの低下は、ソブリン債金利の極めて急速な上昇と株価の下落を原因とするものでした。Switch の発動により、地域銀行では 1 億 7,300 万ユーロのリスク関連費用が計上され、クレディ・アグリコル S.A では同額のプラスのリスク関連費用が生じました。クレディ・アグリコル S.A.の当四半期の純利益グループ帰属分に対する影響は、税金及び地域銀行の寄与分に対するマイナス影響を控除した後では+8,000 万ユーロでした。

更に、年次報告書の法務リスクのセクションで数年に亘って言及されていた事案について、2015 年度第 2 四半期中に進展がありました。

米国の法規は、外国資産管理局(OFAC)が特定の外国、個人及び実体に対して実施する経済制裁の厳守を義務付けています。司法省、ニューヨーク郡地方検事局(DANY)、及びその他の米国政府当局は、制裁対象となっている国、個人又は実体が関係する米ドル建ての支払いを、特定の金融機関がどのように行ったかに関心を寄せています。クレディ・アグリコル CIB グループ及びクレディ・アグリコル S.A.は、そうした制裁の対象となっている可能性のある国、個人又は実体が関係する米ドル建ての支払いについて内部検査を実施し、そうした要請の一部として米当局に協力しています。この検査の結果は、当行が自らの主張を説明する会議において米当局と共有されています。

米当局との協議は、2015 年度第 2 四半期に継続され、現在では非常に進んだ段階にあります。この協議は今も続いており、2015 年秋には包括的な解決に至ると思われれます。これを受けて、3 億 5,000 万ユーロの追加引当金が当グループの財務諸表上に設定されました。

2015 年度上半期の純利益グループ帰属分は、2014 年度上半期の数字の 2 倍となる 17 億 400 万ユーロに達しました。特殊要因に関して修正再表示された事業部門のみを考慮すると、純利益グループ帰属分は 14.9%増加しました。

2015 年 6 月末現在、クレディ・アグリコル S.A.は自らのソルベンシー・ポジションを強化しました。完全適用後 CET1 レシオは、2014 年 6 月末の水準から 30 ベーシス・ポイント改善して 10.2%となりました。クレディ・アグリコル S.A.のレバレッジ・レシオは、欧州委員会が採択した委任法令の下では 4.3%でした。

\*

\* \*

当グループの組織に関して、クレディ・アグリコルは、その定期的な戦略見直しプロセスの枠組み内で2013年9月に市場に対して発表がなされたように熟考している旨を再度表明します。この熟考は、規制当局(特に欧州中央銀行の部局)と共有されています。この意見交換では、現在も撤廃されていない制約が強調されました。結果として、クレディ・アグリコル S.A.の事業範囲に重大な影響を及ぼす可能性のある取引は、当グループに対して外部ソースが言及したと考えられるものと同様に、現段階において実施することはできません。

クレディ・アグリコルの組織の進展は、その歴史と協調的・共生的な企業文化に従って、全ての利害関係者のために一段と総体的な運営・発展方法を確保するという当グループのビジョンに則したものでなければならないことを、クレディ・アグリコルは重視しています。この目的に従って、当グループは自らの組織の中で熟考した事柄を継続して実行します。

\*

\* \*

### 社会的・環境的責任

クレディ・アグリコル S.A.は、パリでの COP21 気候変動会議への本格的な準備として、2015年5月20日に開催された年次株主総会において、炭鉱プロジェクト又は採炭を主な活動とする事業計画に対しては、もはや融資を行わないとの意向を発表しました。同時に、クレディ・アグリコル CIB も、石炭、鉱業及び金属部門の方針について同様の方針変更を公表しました。

同様に、当グループは引き続き、エネルギー転換(エネルギー効率と再生可能エネルギー)にかかわる顧客を対象とした施策を推し進めています。2012年以降、グリーンボンドの草分けであるクレディ・アグリコル CIB は、14%の市場シェアを獲得して現在では世界第2位の座にあります。クレディ・アグリコル・グループは、地域銀行、クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリング、及びクレディ・アグリコル CIB の支援を受けて、フランス国内で再生可能エネルギーを対象に融資を行う銀行の中でナンバーワンの地位にあります。クレディ・アグリコル・グループはまた、2014年末までに世界各地で合計20GWに達する設備容量(フランス国内の1,000万世帯の年間消費量に相当)の発電施設向けに融資を行ってきた世界的なリーダーでもあります。

当グループは更に、適切な商品を提供することで、顧客による化石燃料と石炭のリスク抑制を支援しています。アムンディは6月以降、顧客のポートフォリオのカーボン・フットプリントを最大50%減らすことが可能な低炭素インデックス商品を販売しています。当グループは、いくつかの子会社で ESG(環

境、社会、ガバナンス)分析枠組みを導入しています。この枠組みは、クレディ・アグリコル CIB とアムンディが既に運用しています。

#### 決算スケジュール

2015年11月5日	2015年度第3四半期の決算発表
2016年2月17日	2015年度第4四半期及び通年の決算発表
2016年5月11日	2016年度第1四半期の決算発表
2016年5月19日	年次株主総会(パリ)
2016年8月3日	2016年度第2四半期及び上半期の決算発表
2016年11月8日	2016年度第3四半期の決算発表

*ソルベンシーの要素を除く本文書全体で、2014年度のデータは、IFRIC21の導入後における税務会計手法の変更により修正再表示されています。*

#### Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10). This information was compiled from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly for the calculation of market values and asset impairments. Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

#### Applicable standards and comparability

The figures presented for the six-month period ended on 30 June 2015 have been prepared in accordance with IFRS as adopted for use in the European Union and applicable at that date. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and has not been audited.

**クレディ・アグリコル S.A.連結決算**

(in millions of euros)	Q2-15	Change Q2/Q2	H1-15	Change H1/H1
Revenues	4,628	+18.1%	8,987	+12.7%
Operating expenses excl. SRF	(2,786)	+4.0%	(5,764)	+3.3%
SRF	-	-	(175)	-
<b>Gross operating income</b>	<b>1,842</b>	<b>+48.8%</b>	<b>3,048</b>	<b>+27.4%</b>
Cost of risk	(601)	+12.4%	(1,078)	(4.2%)
<b>Operating income</b>	<b>1,241</b>	<b>+76.4%</b>	<b>1,970</b>	<b>+55.3%</b>
Share of net income of equity-accounted entities	238	nm	714	x9.5
Net income on other assets	3	nm	1	nm
<b>Income before tax</b>	<b>1,482</b>	<b>x4.5</b>	<b>2,685</b>	<b>+98.6%</b>
Tax	(429)	x2.8	(717)	x2.2
Net income from discontinued or held for sale operations	(1)	nm	(18)	nm
<b>Net income</b>	<b>1,052</b>	<b>x5.8</b>	<b>1,950</b>	<b>+87.6%</b>
Non-controlling interests	132	+28.2%	246	+24.1%
<b>Net income Group share</b>	<b>920</b>	<b>x11.9</b>	<b>1,704</b>	<b>x2.0</b>

2015 年度第 2 四半期の収益は、2014 年度第 2 四半期比 18.1%増の 46 億 2,800 万ユーロとなりました。これは、既存社債の再評価、DVA running、及びローン・ヘッジに関する修正再表示後では 43 億 1,700 万ユーロでした。2014 年度第 2 四半期の収益は、既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、Day One FVA の影響、及びイタリア中央銀行による株式再評価に関する修正再表示後で 43 億 4,800 万ユーロとなりました。

営業費用は、2014 年度第 2 四半期から 2015 年度第 2 四半期までで 4.0%増加して 27 億 8,600 万ユーロとなりました。為替効果を除くと、事業部門の営業費用は 2.7%増加しました。

リスク関連費用は、総額で 6 億 100 万ユーロでした。当四半期には、2 つの特殊要因が計上されました。すなわち、訴訟についての 3 億 5,000 万ユーロの追加引当金と、クレディ・アグリコル S.A.の当四半期の財務諸表でリスク費用関連に 1 億 7,300 万ユーロのプラス影響をもたらした Switch 保証の初めての発動です。リスク関連費用は、これら 2 つの特殊要因の修正再表示後では、ほぼ全ての事業部門と特にアゴス・デュカトのリスク関連費用の低下を反映して 20.6%減少しました。あらためてこれらの特殊要因について修正再表示した後のリスク関連費用は、2014 年度第 2 四半期から 13 ベーシス・ポイント改善され、年換算では残高の 39 ベーシス・ポイントとなりました。

不良債権残高<sup>1</sup>は、顧客及び銀行間の総ローン残高の 3.6%(2014 年 6 月 30 日現在では 4.0%)に相当する 152 億ユーロでした。特定引当金に対する不良債権の比率は 55.1%でした。一般引当金を

<sup>1</sup> クレディ・アグリコル内部取引、未収利息、及びファイナンス・リースを除く。

含めると、不良債権引当率は2014年6月30日現在の71.1%に対して72.9%でした。

持分法適用子会社からの純利益帰属分は、当四半期には2億3,800万ユーロを記録しました。これは、地域銀行からの2億3,000万ユーロの寄与分、専門金融サービス部門からの4,500万ユーロ(主に自動車ローン提携事業関連)、及び法人営業及び投資銀行部門からの-4,500万ユーロを含んでいます。後者は、6,500万ユーロ寄与したバンク・サウジ・フランジの堅調な業績と、2件の投資(UBAFとエリプソ(欧州の不動産担保ポートフォリオを保有))の根本的な経済見通しの悪化を反映する1億1,000万ユーロの減損によるものでした。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の2015年度第2四半期の純利益グループ帰属分は、9億2,000万ユーロとなりました。純利益グループ帰属分は、既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、Switch 保証の発動の影響で生じた訴訟のための追加引当金に関する修正再表示後では、9億8,200万ユーロとなりました。2014年度第2四半期の純利益グループ帰属分は、既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、Day One FVA、イタリア中央銀行の株式再評価、及びBESの影響に関する修正再表示後では、10億6,200万ユーロでした。

**2015年度上半期**の収益は、2014年度上半期比12.7%増の89億8,700万ユーロとなりました。これは、既存社債の再評価、DVA running、及びローン・ヘッジに関する修正再表示後では87億ユーロとなりました。2014年度上半期の収益は、既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、Day One FVAの影響、及びイタリア中央銀行の株式再評価に関する修正再表示後で83億5,700万ユーロとなりました。

営業費用は59億3,900万ユーロでした。これは、2015年度上半期における単一破綻処理基金への1億7,500万ユーロの初回拠出分を反映したものです。この要因に関する修正再表示後の営業費用は、2014年度上半期から2015年度上半期までで3.3%増加しました。為替効果を除くと、事業部門の営業費用は1.3%増加しました。

リスク関連費用は10億7,800万ユーロでした。当上半期には2つの特殊要因が計上されました(訴訟のための3億5,000万ユーロの追加引当金とリスク関連費用に1億7,300万ユーロのプラス影響をもたらしたSwitch 保証の初回発動)。リスク関連費用は、これら2つの要因に関する修正再表示後では、ほぼ全ての事業部門と特にアゴス・デュカトのリスク関連費用の低下を反映して19.8%減少しました。あらためてこれらの特殊要因を修正再表示した後のリスク関連費用は、2014年度上半期から13ベース・ポイント改善され、年換算では残高の42ベース・ポイントとなりました。

不良債権残高<sup>1</sup>は、顧客及び銀行間の総ローン残高の3.6%(2014年6月30日現在では4.0%)に相当する152億ユーロでした。特定引当金によってカバーされた不良債権の比率は55.1%でした。一般引当金を含めると、不良債権引当率は、2014年6月30日現在の71.1%に対して72.9%でした。

持分法適用子会社からの純利益帰属分は、当上半期には7億1,400万ユーロとなりました。これには、地域銀行からの5億9,300万ユーロの寄与分、専門金融サービス部門からの8,800万ユーロ(主に自動車ローン提携事業関連)、及び法人営業及び投資銀行部門からの1,900万ユーロが含まれます。後者は、1億2,700万ユーロ寄与したバンク・サウジ・フランジの堅調な業績と2件の投資(UBAF

---

<sup>1</sup> クレディ・アグリコル内部取引、未収利息、及びファイナンス・リースを除く。

とエリプソ(欧州の不動産担保ポートフォリオを保有))の根本的な経済見通しの悪化を反映する 1 億 1,000 万ユーロの減損によるものでした。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の 2015 年度上半期の純利益グループ帰属分は、17 億 400 万ユーロとなりました。純利益グループ帰属分は、既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、単一破綻処理基金への抛出、訴訟のための追加引当金、及び Switch 発動の影響などに関する修正再表示後で、19 億 6,300 万ユーロとなりました。2014 年度上半期の純利益グループ帰属分は、既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、Day One FVA、イタリア中央銀行の株式再評価、及び BES の影響に関する修正再表示後で 18 億 1,200 万ユーロでした。

## ソルベンシー

2015 年 6 月末現在、クレディ・アグリコル S.A.の財務力は、10.2%の完全適用後 CET1 レシオが示す通りであり、2015 年 3 月 31 日時点と比べて安定しています。

当四半期は、Switch 保証の発動が大きな特徴となっています。Switch 保証の目的は、地域銀行(CCI/CCA)及びクレディ・アグリコル・アシュアランス(CAA)に対するクレディ・アグリコル S.A.の持分に関連する規制要件をカバーすることです。カバーされる持分法適用価額は 239 億ユーロです。Switch 保証は、地域銀行及びクレディ・アグリコル・アシュアランスに対する持分の持分法適用合計価額の低下が、ある特定の四半期に認識されたときに発動されます。2015 年度第 2 四半期における Switch 保証の発動は、ソブリン債金利の突然の急上昇と株価の下落に対する(基本的には CAA のための)AFS 準備金の減少分(-7 億 6,100 万ユーロ)が、地域銀行と CAA のプラスの業績(+5 億 5,400 万ユーロ)によって完全には相殺されなかったことによるものです。Switch 保証の発動により、地域銀行の決算書のリスク関連費用に 1 億 7,300 万ユーロの引当金が計上されました。同時に、クレディ・アグリコル S.A.は、同じ金額のプラスのリスク関連費用をコーポレート・センターで計上しました。全体では、クレディ・アグリコル S.A.は、2015 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分に 8,000 万ユーロの利益を計上しました。クローバック規定に従って、持分法適用合計価額のその後の増加は、持分法適用価額が低下前の水準に戻るまで地域銀行に恩恵をもたらすこととなります。

クレディ・アグリコル S.A.は当四半期中に、持続的に資本を生成する重要な能力を発揮し、Switch の発動前に当四半期の帰属業績から 24 ベーシス・ポイントの増加がありました。Switch の発動により、3 ベーシス・ポイントが追加され、また、50%配当及び主要株主を対象とした 100%の株式配当を前提とすると、分配は-7 ベーシス・ポイントと試算されました。最後に、2014 年度の業績に対する外部証書配当(CET1 レシオに 8 ベーシス・ポイントを追加)によって資本金が強化されました。反対に、レシオは、金利上昇による大きな短期的影響を理由に低下し、AFS 含み益が 25 ベーシス・ポイント減(このうち、保険ポートフォリオが-15 ベーシス・ポイント)となりました。AFS 含み益の減少は、Switch メカニズムを通じて、CAA と地域銀行の業績及び純利益グループ帰属分に対する Switch の 8,000 万ユーロの発動による影響によって相殺されました。したがって、2015 年 6 月 30 日現在の CET1 レシオにおける AFS 含み益のストックは、およそ 95 ベーシス・ポイントへと低下しました。2015 年度第 2 四半期のリスク・ウェイト資産は抑制され、事業部門のリスク・ウェイト資産は-12 億ユーロ減少しました。

合計段階適用レシオは、当四半期における 23 億ユーロの Tier 1 及び Tier 2 の発行の要請後には、

2015年6月30日現在で19.2%でした。

欧州委員会が採択した委任法令の下でのクレディ・アグリコル S.A.のレバレッジ・レシオは、4.3%<sup>1</sup> (2014年末現在では4.2%)となりました。

コングロマリット・レシオは、2015年6月30日現在で236%でした。

## 流動性

クレディ・アグリコル・グループのバランスシート上の現金は、2015年3月末現在の1兆420億ユーロ及び2014年6月末現在の1兆210億ユーロに対して、2015年6月末現在では総額1兆410億ユーロでした。

長期の利用可能資金に対する長期資金調達超過額は、2015年3月31日現在の1,040億ユーロ及び2014年6月30日現在の710億ユーロに対して、2015年6月30日現在では1,030億ユーロでした。これは、2015年度に前四半期比で安定的に推移し、2014年6月30日から2015年6月30日までの1年間で320億ユーロ増加しました。

証券ポートフォリオに関連する評価益及びヘアーカットを含む流動性準備金は、2015年6月30日現在で2,470億ユーロに達し、総短期債務の213%をカバーしました(2015年3月31日現在で218%、2014年6月30日現在で176%)。評価益及びヘアーカット後のHQLA証券は、中央銀行に預け入れていない短期債券の156%を占めました。当グループとクレディ・アグリコル S.A.のLCRレシオは、2015年6月末現在で共に110%を上回りました。

クレディ・アグリコル・グループの主な発行体は、2015年度上半期に市場及び支店ネットワークにおいてシニア債とTier 2によって188億ユーロを調達しました。クレディ・アグリコル S.A.自体は、シニア債(ユーロ、米ドル、日本円、スイスフラン)によって43億ユーロ相当額、Tier 2(ユーロ、米ドル、日本円)によって37億ユーロ相当額を同期間中にそれぞれ調達しました。クレディ・アグリコル S.A.は2015年6月30日現在、100億ユーロ(支店ネットワークを除く)の中・長期市場資金調達計画(シニア債と劣後債)の80%を完了しました。

---

<sup>1</sup> ECBの承認を前提とし、クレディ・アグリコル S.A.のグループ内取引の非ウェイト化に関連する+100 ベーシス・ポイントの影響を伴う。

## 部門別決算

### 1. フランス国内のリテール・バンキング

#### 1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q2-15	Change Q2/Q2*	H1-15	Change H1/H1*
Net income accounted for at equity (at ~ 25%)	223	+4.2%	421	0,0%
Change in share of reserves	7	+89.0%	172	+12.9%
Share of net income of equity-accounted entities	230	+5.6%	593	+3.3%

\* Switch 保証の発動を除く。

地域銀行は 2015 年度第 2 四半期に、全ての事業分野でバランスの取れた成長を達成するという戦略を引き続き実施しました。

顧客預かり資産は成長を維持し、2015 年 6 月末現在で残高が前年同期比 2.6%増の 6,100 億ユーロとなりました。この伸びをけん引したのは、2015 年 6 月末現在で 3,600 億ユーロ(前年同期比 3.9%増)に達したオン・バランスシート預金と、2,500 億ユーロ(0.9%増)に達したオフ・バランスシート顧客預かり資産です。オン・バランスシート預金の増加は主に、満期が近い定期預金と口座(7.4%減)及び継続的な証券再投資の恩恵を受けた要求払預金(13.2%増)によるものです。住宅購入貯蓄プランも、貯蓄者にとって非常に魅力的であり、1 年間で 8.5%増加しました。一方、オフ・バランスシート顧客預かり資産は、引き続き生命保険にけん引されて、2015 年 6 月末現在で前年同期比 4.0%増となりました。

2015 年 6 月末現在のローン残高は、前年同期比 1.6%増の 4,060 億ユーロとなりました。この伸びは主に、住宅ローン(3.0%増)が寄与する一方で、消費者金融は改善を示して残高が 2.2%増加しました。

2015 年 6 月末現在の預貸比率は、2014 年 6 月末現在と比べて安定を維持し、114%となりました。

2015 年度第 2 四半期の地域銀行の収益(グループ内取引の修正後)は、2014 年度第 2 四半期比で 1.9%増の 35 億 1,300 万ユーロとなりました。この数字には、住宅購入貯蓄プラン引当金の-4,200 万ユーロ(2014 年度第 2 四半期は-1,600 万ユーロ)が含まれています。手数料収入は、生命保険の力強い伸び(保険手数料は前年同期比 5.4%増)とバンキング・サービス(5.1%増<sup>1</sup>)にけん引されて、当四半期は前年同期比 4.7%<sup>1</sup> という大幅増を達成しました。金利マージンは、子会社からの受取配当と依然として高水準の早期返済違約金(2014 年度第 2 四半期から 2015 年度第 2 四半期までで 7,300 万ユーロ増)に支えられ、前年同期比で 1.4%<sup>1</sup> 増加しました(住宅購入貯蓄プランを除く)。

営業費用は、前年同期と比べて安定を保ちました(+0.4%)。

2015 年度第 2 四半期の地域銀行のリスク関連費用は、Switch 保証メカニズムの発動のための引当金(1 億 7,300 万ユーロ)を含めて 3 億 6,600 万ユーロでした。地域銀行(CCI と CCA)及びクレディ・

<sup>1</sup> 外貨の購入及び売却(年間約 2,500 万ユーロ)における損益の純金利マージンから手数料収入への分類変更に関して修正再表示後。

アグリコル・アシュアランスに対するクレディ・アグリコル S.A.の持分法適用投資の総価額が、2015 年度第 2 四半期に減少したため、契約規定に従ってクレディ・アグリコル S.A.による保証が要求されることになりました。Switch 保証の発動を除くと、リスク関連費用は引き続き改善し、1 年間で 2.9%減少して残高の 19 ベーシス・ポイントとなりました。2015 年 6 月末現在の不良債権比率は、2014 年 12 月末現在と比べて 2.5%へとわずかに低下する一方、一般引当金を含む引当率は 100%を超える水準を維持しました。

したがって、2015 年度第 2 四半期の営業利益は、Switch の発動を除くと前年同期比で 4.7%増の 12 億 5,700 万ユーロとなりました。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分に対する地域銀行の寄与は、2015 年度第 2 四半期に Switch の発動を除くと前年同期比 5.6%増の 2 億 3,000 万ユーロでした。

2015 年度上半期の地域銀行の収益(グループ内取引の修正後)は、2014 年度上半期と比べてほぼ安定し(0.2%減)、69 億 8,500 万ユーロとなりました。この数字には、住宅購入貯蓄プラン引当金の-1 億 8,100 万ユーロが含まれています(2014 年度上半期は-100 万ユーロ)。手数料収入は、生命保険の力強い伸び(保険手数料は年初における年次手数料分配調整前で前年同期比 10.1%増)とバンキング・サービス(6.1%増<sup>1</sup>)にけん引され、前年同期比 6.3%<sup>1</sup>という大幅増を記録しました。金利マージンは、引き続き規制貯蓄性預金のコストの悪影響を受けましたが、高水準の早期返済違約金(2014 年度上半期から 2015 年度上半期までで 1 億 1,000 万ユーロ増)及び子会社から受け取った高配当から恩恵を受けました。これは、住宅購入貯蓄プランの引当金を除くと、上半期に前年同期比で-0.8%<sup>1</sup>と事実上安定を維持しました。

2015 年度上半期の営業費用は、SRF の影響(-4,600 万ユーロ)を除くと安定しました(前年同期比 0.1%増)。

2015 年度上半期における地域銀行のリスク関連費用は、Switch 保証メカニズムの発動のための引当金(1 億 7,300 万ユーロ)を含めて 5 億 6,200 万ユーロでした。地域銀行(CCI と CCA)及びクレディ・アグリコル・アシュアランスに対するクレディ・アグリコル S.A.の持分法適用投資の総価額が、当四半期に減少したため、契約規定に従ってクレディ・アグリコル S.A.による保証が要求されました。Switch 保証の発動を除くと、リスク関連費用は引き続き改善して 1 年間で 23.2%減少し、残高の 7 ベーシス・ポイント減となる 20 ベーシス・ポイントでした。不良債権比率は、2014 年 12 月末現在と比べて 2.5%へとわずかに低下する一方、一般引当金を含む引当率は 100%を超える水準を維持しました。

したがって、SRF の影響を除いた 2015 年度上半期の営業利益は、2014 年度第上半期比で 3.9%増の 25 億 3,000 万ユーロ(Switch の発動を除く)となりました。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分に対する 2015 年度上半期の地域銀行の寄与は、Switch の発動を除くと前年同期比 3.3%増の 5 億 9,300 万ユーロでした。なお、各年度の上半期には、地域銀行における準備金シェアの変動分が含まれており、これは 2015 年度上半期には 1 億 7,200 万ユーロとなりました(前年同期比 12.9%増)。

---

<sup>1</sup> 外貨の購入及び売却(年間約 2,500 万ユーロ)における損益の純金利マージンから手数料収入への分類変更に関して修正再表示後。

## 1.2. LCL

2015 年度第 2 四半期現在、LCL の連結対象範囲には、事業活動(顧客預金及びローン)と業績の両面で Banque Française Commerciale Antilles Guyane (BFCAG) が含まれています (BFCAG の上半期の業績は、2015 年度第 2 四半期に LCL の連結対象となった)。

(in millions of euros)	Q2-15	Change Q2/Q2*	H1-15	Change H1/H1*
<b>Revenues</b>	<b>944</b>	<b>(1.4%)</b>	<b>1,866</b>	<b>(2.5%)</b>
Operating expenses excl. SRF, transformation plan and BFCAG	(608)	(2.1%)	(1,252)	(1.5%)
SRF impact	-	-	(12)	-
Transformation plan impact	(11)	+32.6%	(19)	+55.3%
BFCAG impact	(19)	-	(19)	-
<b>Gross operating income</b>	<b>306</b>	<b>(0.7%)</b>	<b>564</b>	<b>(7.7%)</b>
Cost of risk	(16)	(71.5%)	(64)	(49.1%)
<b>Operating income</b>	<b>290</b>	<b>+15.0%</b>	<b>500</b>	<b>+3.1%</b>
<b>Income before tax</b>	<b>289</b>	<b>+14.7%</b>	<b>499</b>	<b>+2.9%</b>
Tax	(107)	+19.4%	(185)	+6.6%
<b>Net income</b>	<b>182</b>	<b>+12.0%</b>	<b>314</b>	<b>+0.8%</b>
Non-controlling interests	10	+12.5%	16	+1.3%
<b>Net income Group share</b>	<b>172</b>	<b>+13.6%</b>	<b>298</b>	<b>+1.5%</b>

\* BFCAG を除いた変動。

2015 年度第 2 四半期は、堅調な預金、融資の拡大、及びリスク関連費用の低下により、これまでの四半期と同様の傾向を示しました。

顧客預かり資産は、2015 年 6 月末現在で前年比 4.2%増の 1,721 億ユーロとなりました。成長をけん引したのは、主にオン・バランスシート預金(前年比 5.4%増)と特に要求払預金の大幅な増加(前年同期比 13.2%増)でした。一方、オフ・バランスシート顧客預かり資産は、1 年間で 2.9%増加し、生命保険からの大きな資金流入により好調を維持しています(1 年間で 4.3%増)。

ローン残高は、2015 年 6 月末現在で前年比 4.8%増の 941 億ユーロでした。成長を維持したのは、前年比 6.7%増の 608 億ユーロを記録した住宅ローンでした。同時に、スモールビジネス・セグメントでは 5 四半期連続で成長を達成しており、このセグメントは 1 年間で 5.7%増となりました。同じ期間に、2015 年 6 月末現在の消費者金融残高は 2.5%増の 67 億ユーロとなりました。

2015 年 6 月末現在の預貸比率は、同年 3 月末時点(110%)からほぼ横ばいの 111%でした。

2015 年度第 2 四半期の LCL の収益は、BFCAG 及び Crédit Logement の配当欠如の影響を除くと、前年同期比で安定を維持しました(+0.6%)。純金利マージンは、規制貯蓄コスト(1 年間で約-4,500 万ユーロの影響)により引き続き悪影響を受けましたが、早期返済違約金によって大きく下支えされました。新規貸付マージンは好調を維持し、LCL は、件数の伸びに対する影響を受けることなく住宅ローン金利を引き上げた国内初の銀行となりました。当四半期は、Crédit Logement から配当を受けませんで

した(前年同期は 1,200 万ユーロ)。最後に、LCL は、住宅購入貯蓄プランの引当金の戻入れとして 900 万ユーロを計上しました(前年同期は 200 万ユーロの費用)。

2015 年度第 2 四半期の営業費用(変革計画と BFCAG の連結化を除く)は、前年同期比で 2.1%減少しました。変革計画に関連する費用は、予想通りに増加分が前年同期のおよそ 3 分の 1 となる 1,100 万ユーロでした。BFCAG の統合に伴う 2015 年度第 2 四半期の営業費用は 1,900 万ユーロとなり、これは BFCAG の 2 四半期分の費用に相当します。BFCAG と変革計画を除いた LCL の当四半期のコスト比率は、前年同期比で 0.6 ポイントの改善となる 65.9%でした。

2015 年度第 2 四半期のリスク関連費用は、非常に低い 1,600 万ユーロ(BFCAG を除くと前年同期比 71.5%減)となり、これは貸付残高に対して 6 ベーシス・ポイントです。これは、過去の四半期に記録した低水準のリスクの継続だけでなく、当四半期の訴訟の和解に伴う回復を反映しています。2015 年 6 月末現在の不良債権比率は、引き続き低下して 2.2%となる一方、不良債権引当率(一般引当金を含む)は 72.1%でした。

全体では、純利益グループ帰属分は、前年同期比 13.6%増となる 1 億 7,200 万ユーロでした(BFCAG を除く)。

## 2. 国際リテール・バンキング

2015 年度第 2 四半期の**当部門の純利益グループ帰属分**は、2014 年度第 2 四半期の 6 億 200 万ユーロの損失に対して 9,100 万ユーロでした。

(in millions of euros)	Q2-15	Change Q2/Q2	H1-15	Change H1/H1
<b>Revenues</b>	<b>693</b>	<b>+3.8%</b>	<b>1,337</b>	<b>(1.6%)</b>
Operating expenses before SRF	(365)	+2.3%	(740)	(0.1%)
SRF	-	-	(8)	-
<b>Gross operating income</b>	<b>328</b>	<b>+5.6%</b>	<b>589</b>	<b>(4.7%)</b>
Cost of risk	(149)	+6.0%	(298)	(25.4%)
<b>Operating income</b>	<b>179</b>	<b>+5.2%</b>	<b>291</b>	<b>+33.2%</b>
Equity affiliates	2	nm	3	nm
Net income on other assets	-	nm	-	nm
<b>Income before tax</b>	<b>181</b>	<b>nm</b>	<b>294</b>	<b>nm</b>
Tax	(57)	+20.4%	(103)	+59.1%
Net income from discontinued or held for sale operations	(1)	nm	(17)	nm
<b>Net income</b>	<b>123</b>	<b>nm</b>	<b>174</b>	<b>nm</b>
Non-controlling interests	32	+34.7%	56	+53.7%
<b>Net income Group share</b>	<b>91</b>	<b>nm</b>	<b>118</b>	<b>nm</b>

**イタリア**では、カリパルマが 2015 年度第 2 四半期に引き続き大きく業績を伸ばしました。2015 年 6 月末現在の顧客預かり資産は、前年同期比 5.4%増の 947 億ユーロでした。この伸びは、当グループのさまざまなイタリア子会社間での商品のクロスセリングの増加が一部寄与しました。オフ・バランスシートの顧客預かり資産は、生命保険と投資信託資産の 42 億ユーロ(20.3%)増にけん引されて、2014 年 6 月末現在と比べて 9.4%増を記録しました。オン・バランスシート預金は、低金利環境の中でオフ・バランスシートの顧客預かり資産の恩恵を受けて安定を維持しました。顧客ローン残高は、6.4%増を記録した住宅ローンと企業向けローンの回復(3.6%増)により、2015 年 6 月末現在で前年同期比 2.3%増の 340 億ユーロでした。

**2015 年度第 2 四半期**の収益は、前年同期比 7.9%増の 4 億 4,900 万ユーロとなりました。成長をけん引したのは、堅調なオフ・バランスシート預金による手数料収入(14.3%増)と純金利マージン(1.2%増)の伸びでした。

営業費用は、前年同期比で 1.4%増加しました。2015 年度第 2 四半期のコスト比率は、力強い収益と適切なコスト規律を要因として前年同期比で 3.2 ポイント改善して 52.5%となりました。

2015 年度第 2 四半期のリスク関連費用は、イタリア経済の回復とカリパルマが実施した厳格なリスク管理により、前年同期比 3.4%減の 9,900 万ユーロとなりました。合計残高に対する不良債権比率は 13.2%、引当率(一般引当金を含む)は前期から増加となる 45.1%でした。

全体では、カリパルマの純利益グループ帰属分は、2014 年度第 2 四半期の 4,100 万ユーロに対して 2015 年度第 2 四半期は 5,400 万ユーロでした。国内連結対象範囲をベースとすると、カリパルマの純利益グループ帰属分は、当四半期には 8,700 万ユーロとなりました。

**2015 年度上半期**の収益は、前年同期比 7.1%増の 8 億 6,700 万ユーロでした<sup>1</sup>。成長をけん引したのは、好調なオフ・バランスシート預金による手数料収入(11.6%増)と純金利マージン(1.7%増)の伸びでした。

SRF の影響を除いた 2015 年度上半期の営業費用は、前年同期比でほぼ横ばいでした(0.5%増)。コスト比率は、収益の伸びと適切なコスト規律によって前年同期比で 4.1 ポイント改善して 53.0%<sup>1</sup>となりました。

2015 年度上半期のリスク関連費用は、イタリア経済の改善とカリパルマが実施した厳格なリスク管理により、前年同期比で 5.8%<sup>1</sup>減の 1 億 9,800 万ユーロとなりました。合計残高に対する不良債権比率は 13.2%、引当率(一般引当金を含む)は、前期比で増加となる 45.1%でした。

2015 年度上半期のカリパルマの純利益グループ帰属分は、2014 年度上半期の 4,900 万ユーロに対して 44.5%<sup>1</sup>増の 9,300 万ユーロとなりました。国内連結対象範囲をベースとすると、カリパルマの純利益グループ帰属分は、2015 年度上半期に 1 億 4,100 万ユーロとなりました。

**当グループの他の海外リテール・バンク**も順調に業績を拡大しました。顧客預かり資産は、2015 年 6 月末現在で前年同期比 11.2%増となる 130 億ユーロを記録しました。オン・バランスシート預金は、2015 年 6 月末現在で前年同期比 9.2%増となる 114 億ユーロでした。オフ・バランスシートの顧客預かり資産は特に拡大し、28.2%増の 16 億ユーロに達しました。

ローン残高は、ポーランドとエジプトでの好業績により、2015 年 6 月末現在で前年同期比 5.0%増の 103 億ユーロを記録しました。

2015 年 6 月末時点でのローンに対するオン・バランスシート預金の超過額は、エジプト、モロッコ、ウクライナでの超過額が寄与して 18 億ユーロとなりました。ポーランドでは赤字が縮小しました。

したがって、2015 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分は、低金利による収益への悪影響にもかかわらず、堅調な業績を受けて倍増したエジプトの寄与分(1,600 万ユーロ)とポーランドの安定的な寄与分(1,500 万ユーロ)にけん引されて、3,700 万ユーロを記録しました。CA ウクライナの寄与分は、リスク関連費用に悪影響を及ぼしていた困難な事業環境にもかかわらず、400 万ユーロのプラスに転じました。クレディ・デュ・モロッコは、限られた企業ファイルについてのリスク関連費用の増加にもかかわらず引き続きプラスに寄与しました。

なお、2014 年度第 2 四半期には、BES を理由とした持分法適用会社からの利益シェアのマイナス影響(純額で-7 億 800 万ユーロ)が含まれていました。

**2015 年度上半期**の純利益グループ帰属分は 2,500 万ユーロで、クレディ・アグリコル・アルバニアの

---

<sup>1</sup> カリパルマがその国内連結財務諸表(2013 年 12 月 31 日現在)で計上した項目と 2014 年度第 1 四半期にクレディ・アグリコル S.A.が計上した項目(すなわち、収益の+8,000 万ユーロ(このうち、イタリア中央銀行による株式再評価が+9,200 万ユーロで、リスク関連費用が-1 億 900 万ユーロ)、及びこれらの項目に関連する所得税を除く。

IFRS 第 5 号への再分類を除くと 4,100 万ユーロとなりました。収益は、エジプトでの好業績を主な要因として 4 億 7,000 万ユーロとなり、前年同期比で安定しました。2015 年度上半期の営業費用は、コスト比率が 59.9%となることで、引き続き抑制されました。2015 年度上半期のリスク関連費用は、前年同期比 23.7%増の 1 億ユーロでした。これは、モロッコとウクライナの情勢から悪影響を受けましたが、2014 年度下半期と同水準で推移しました。子会社別では、エジプトが高い水準の業績を維持し、その寄与分は 3,000 万ユーロと大幅に増加しました。クレディ・アグリコル・ポーランドの寄与分は、当上半期中に計上した新たな課徴金及び収益に対する低金利の悪影響により、前年同期比では減少となる 2,000 万ユーロでした。ウクライナは、リスク関連費用に悪影響を及ぼした困難な事業環境にもかかわらず、プラスに寄与しました。クレディ・デュ・モロッコの寄与は、プラスを維持したものの、限られた企業ファイルについてのリスク関連費用の増加を理由に減少しました。

### 3. 資産管理と保険

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、及び資産運用サービスが含まれます。

資産運用額は、アムンディの 466 億ユーロ、生命保険の 38 億ユーロ、プライベート・バンキングの 26 億ユーロをはじめとする全てのセグメントの合計で、530 億ユーロの資金流入額（純額）があり、2014 年 12 月末と比べて 928 億ユーロ増加しました。堅調な業績に加えて、当部門は、345 億ユーロに上るマーケットと為替のプラス効果と、資産管理での 53 億ユーロの連結効果の恩恵を受けました。合計資産運用額は、2015 年 6 月 30 日現在、前年末比 7.3%増の 1 兆 3,610 億ユーロとなりました。2015 年度上半期の当部門の純利益グループ帰属分は、2014 年度第 2 四半期比で 16.7%増となる当四半期の 4 億 5,700 万ユーロを含めて 8 億 5,900 万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q2-15	Change Q2/Q2	H1-15	Change H1/H1
Revenues	1,442	+12.5%	2,873	+11.3%
Operating expenses	(682)	+9.8%	(1,428)	+8.8%
<b>Gross operating income</b>	<b>760</b>	<b>+15.1%</b>	<b>1,445</b>	<b>+13.9%</b>
Cost of risk	(14)	(65.0%)	(22)	(50.2%)
<b>Operating income</b>	<b>746</b>	<b>+20.2%</b>	<b>1,423</b>	<b>+16.2%</b>
Equity affiliates	6	x2	12	+62.3%
Net income on other assets	10	+59.7%	7	+12.9%
<b>Income before tax</b>	<b>762</b>	<b>+21.1%</b>	<b>1,442</b>	<b>+16.5%</b>
Tax	(266)	+29.9%	(508)	+21.8%
Net income from discontinued or held for sale operations	1	-	1	-
<b>Net income</b>	<b>497</b>	<b>+17.0%</b>	<b>935</b>	<b>+13.9%</b>
Non-controlling interests	40	+20.1%	76	+11.9%
<b>Net income Group share</b>	<b>457</b>	<b>+16.7%</b>	<b>859</b>	<b>+14.1%</b>

資産運用部門では、アムンディの資産運用額が 9,540 億ユーロに達しました。当四半期の新規資金流入額（純額）は 226 億ユーロでした。2015 年度上半期の新規資金流入額（純額）は 466 億ユーロとなり、このうちの半分は、特にフランスを除く欧州とアジアからもたらされました。この流入額の半分は、主に債券、分散投資商品、及び ETF 商品などの長期資産（276 億ユーロ）、残りの半分は現金（190 億ユーロ）でした。資産増加は、全ての顧客セグメントによってけん引されました。リテール顧客セグメントは、247 億ユーロの新規流入額（純額）により特に増加し、フランスの支店ネットワークからのプラス傾向を確認しました。2015 年度上半期のマーケットと為替のプラス効果は 246 億ユーロに達し、これにより 2015 年 6 月末時点の資産運用額は 9,540 億ユーロに増加しました。資産運用額は、2014 年 12 月末比 8.7%増、前年同期比では 14.4%増となりました。

アムンディは、2015 年度第 2 四半期に堅調な収益の伸びを達成し、純利益が 1 億 4,400 万ユーロ、純利益グループ帰属分が 1 億 1,300 万ユーロとなりました。その寄与分は、2015 年度上半期に前年同期比 28.1%増の 2 億 1,100 万ユーロに達しました。収入は、運用資産の伸びと良好な利ざやが相俟って、当四半期が前年同期比 13.4%増、上半期が同 15.2%増となりました。当四半期の営業費用は

前年同期比 14.8%増で、為替効果を除いた同一条件下では 10.9%の増加となりました。2015 年度上半期の費用は、前年同期比 11.1%増、為替効果を除いた同一条件下では 7.9%増でした。この実績は、アムンディの国際的な地位の強化を主に反映するものです。全体では、コスト比率は、2014 年度上半期比で 1.8 ポイントの改善となる 53.4%と高い競争力を示す水準に留まりました。

資産運用サービス部門では、**CACEIS** は、営業努力を継続した結果、カストディー資産の更なる増加を達成しました。これは、2014 年 6 月末時点から 2.6%増の 2 兆 4,120 億ユーロとなりました。順調な事業拡大により、資産管理額は前年同期比 10.1%増の 1 兆 4,670 億ユーロとなりました。

したがって、純利益グループ帰属分は、2015 年度第 2 四半期及び上半期の収益の伸びがそれぞれ 3.6%、5.6%となったことで、四半期ベースでは 29.8%増の 2,600 万ユーロ、上半期ベースでは 12.3%増の 4,100 万ユーロとなりました。

**プライベート・バンキング**部門では、2015 年度上半期に資産流入額(純額)が 26 億ユーロとなったことを主な要因として、2015 年 6 月末時点の運用資産額は、2014 年 12 月末時点から 6.9%増の 1,512 億ユーロとなりました。

2015 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分は、法的な問題についての追加引当金により悪影響を受けて、前年同期の 500 万ユーロに対して 2,100 万ユーロでした。2015 年度上半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比 63.8%増の 4,600 万ユーロとなりました。

**保険**部門では、2015 年度第 2 四半期及び上半期の保険料収入がそれぞれ 78 億ユーロ、166 億ユーロとなりました。2015 年度上半期の貯蓄/退職保険及び死亡・高度障害保険への新規資金流入額(純額)は、フランスでの 28 億ユーロを含めて 45 億ユーロを記録しました。

貯蓄/退職保険セグメントは好調を維持しました。2015 年度第 2 四半期の保険料収入は、前年同期の 57 億ユーロに対して 10.1%増となる 63 億ユーロでした。運用資産額は、2015 年 6 月末時点で前年同期比 5.6%増の 2,555 億ユーロとなりました。ユーロ資金は前年同期比 4.6%増の 2,056 億ユーロとなる一方、ユニット・リンク型ファンドは前年同期比 9.7%増の 499 億ユーロでした。ユニット・リンク型ファンドのシェアは、前年比で 0.7 ポイント増となり、四半期ベースの流入額の 27%、ストックの 19.5%となりました。

死亡・高度障害保険/健康保険/団体信用保険セグメントでは、2015 年度第 2 四半期の保険料収入は、フランス及びイタリアでの住宅ローンの好業績にけん引されて前年同期比 2.0%増の 8 億 8,100 万ユーロとなりました。当四半期には、企業セグメント向けの団体保険事業(健康保険と死亡・高度障害保険)の展開及びスモール・ビジネス市場向けの団体死亡・高度障害保険の販売を開始しました。

損害保険は、リテール市場及び農業・スモール・ビジネス市場での新たな事業成長を持続しました。2015 年度第 2 四半期の保険料収入は、前年同期比 4.9%増の 5 億 7,000 万ユーロでした。保険料収入に対する(請求額+営業費用)の比率として定義されるコンバインドレシオ(再保険後)は、引き続き抑制されました。これは、パンフィカについては 95.9%でした。

全体では、2015 年度第 2 四半期の保険部門の純利益グループ帰属分は、前年同期比 8.5%増の 2 億 9,700 万ユーロでした。2015 年度上半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比 7.1%増の 5 億 6,100 万ユーロとなりました。

#### 4. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q2-15	Change Q2/Q2	H1-15	Change H1/H1
Revenues	665	(1.7%)	1,311	(3.8%)
Operating expenses excl. SRF	(320)	0.2%	(669)	(1.8%)
Impact SRF	-	-	(17)	-
Gross operating income	345	(3.5%)	625	(8.4%)
Cost of risk	(183)	(29.9%)	(388)	(28.6%)
Operating income	162	+68.0%	237	+70.3%
Share of net income of equity-accounted entities	45	20.7%	88	28.7%
Income before tax	207	+54.8%	325	+57.0%
Tax	(55)	x 2.2	(90)	x 2.2
Net income from discontinued or held for sale operations			(1)	nm
Net income	152	+62.3%	234	+49.2%
Non-controlling interests	27	x 3.6	41	x 4.1
Net income Group share	125	+45.2%	193	+31.6%

専門金融サービス部門には、フランスのクレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスと国外の子会社又は提携企業、及びクレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリングが含まれます。

2015 年度第 2 四半期の当部門の純利益グループ帰属分は、前年同期の 8,600 万ユーロに対して 1 億 2,500 万ユーロとなりました。2015 年度上半期の純利益グループ帰属分は、SRF の-1,600 万ユーロの費用を含めて 1 億 9,300 万ユーロでした。

消費者金融部門では、クレディ・アグリコル・グループのバンキング・ネットワーク(20%増)、自動車ローン提携事業(21%増)、及びドイツのクレディプラス(32%増)がけん引役となり、オリジネーション業務全体で 2014 年度第 2 四半期比 13.7%増を記録しました。6 月末時点での管理消費者信用残高は、2013 年度第 4 四半期以降で初めて 700 億ユーロを超える伸びを記録しました。

管理消費者信用残高は、2014 年度第 4 四半期にアゴス・デュカトが売却した資産の修正再表示後では 1 年間で 3.1%増となりました。残高の地理的な内訳は、これまでの四半期とほぼ同じであり、フランスが 38%、イタリアが 32%、その他の諸国が 30%でした。更に、CACF は、その外部資金調達手段を引き続き多様化しており、その比率は 6 月末時点で最大 63%となっています。特に顕著だったのは、41 億ユーロの貯蓄性預金、74 億ユーロの証券化(当四半期のアゴス・デュカトの 8 億ユーロのローンを含む)、及び当四半期の 13 億ユーロを含む 49 億ユーロの EMTN 発行(FCA バンク)です。

2015 年度第 2 四半期の CACF の収益は、前四半期比で 3%増となり、前年同期比では-0.3%とほぼ横ばいでした。自動車ローン提携事業も、持分法適用子会社の寄与が 25%拡大したことで CACF の収益性に寄与しました。

当四半期の営業費用は、前年同期比 2.0%増の 2 億 5,300 万ユーロとなりました。

リスク関連費用は、アゴス・デュカトでの改善を主な理由として大幅に減少しました。2015 年度第 2 四

半期の消費者金融部門のリスク関連費用は、イタリア子会社を主因として前年同期比 32.3%減の 1 億 6,800 万ユーロでした。リスク関連費用は、(年間)残高の 184 ベーシス・ポイントとなりました(前年同期は 256 ベーシス・ポイント)。2015 年度第 2 四半期のアゴス・デュカトのリスク関連費用は、前年同期比 52.2%減の 7,100 万ユーロとなりました。2015 年 6 月末現在のアゴス・デュカトの不良債権比率は 10.7%(2014 年 6 月末現在では 12.6%)で、不良債権引当率は一般引当金を含めて 100.4%でした。

全体では、CACF の純利益グループ帰属分は、2014 年度第 2 四半期の 6,000 万ユーロに対して 9,200 万ユーロとなりました。

**2015 年度上半期**の CACF の収益は、連結対象残高の減少に関連して前年同期から 3.3%減少しました。自動車ローン提携事業は、持分法適用子会社の寄与が 34%拡大したことで、CACF の収益性に寄与しました。

2015 年度上半期の営業費用は、1,100 万ユーロの SRF の影響を除くと 5 億 3,600 万ユーロと安定を維持しました。

リスク関連費用は、アゴス・デュカトの改善を主な要因として大幅に減少しました。2015 年度上半期の消費者金融部門のリスク関連費用は、アゴス・デュカトを主な要因として前年同期比 30.5%減の 3 億 5,600 万ユーロでした。2015 年度上半期のリスク関連費用は、(年間)残高の 198 ベーシス・ポイントとなりました(前年同期は 275 ベーシス・ポイント)。当上半期のアゴス・デュカトのリスク関連費用は、前年同期比 43.7%減の 1 億 7,500 万ユーロとなりました。2015 年 6 月末現在のアゴス・デュカトの不良債権比率は、10.7%(2014 年 6 月末現在では 12.6%)で、不良債権引当率は一般引当金を含めて 100.4%でした。全体では、CACF の純利益グループ帰属分は、2014 年度第 2 四半期の 1 億 300 万ユーロに対して、SRF の 1,000 万ユーロを含めて 1 億 4,500 万ユーロでした。

**リーシング及びファクタリング**部門は、好調な業績を維持しました。当四半期の新規リーシング事業は、前年同期比で 15.1%増を記録しました。2014 年度第 4 四半期にギリシャの CAL ヘラスを売却した後(残高の 4 億ユーロ)の 2015 年度第 2 四半期の残高は、148 億ユーロで安定しました。当四半期の買取売掛債権は、前年同期比 7%増の 170 億ユーロとなりました。

**2015 年度第 2 四半期**の CAL&F の収益は、フランスでのリース・ファイナンス残高の低下(ポートフォリオ売却)により、前年同期比 3.0%減の 1 億 3,100 万ユーロとなりました(CAL ヘラスを除く)。当四半期の営業費用は 6.1%減の 6,700 万ユーロでした。リスク関連費用は、1,500 万ユーロと低い水準に維持されました。全体では、2015 年度第 2 四半期の CAL&F の純利益グループ帰属分は 3,300 万ユーロでした。

**2015 年度上半期**の CAL&F の収益は、フランスでのリース・ファイナンス残高の低下(ポートフォリオ売却)を主な要因として、前年同期比 3.7%減の 2 億 5,800 万ユーロとなりました(CAL ヘラスを除く)。当上半期の営業費用は、SRF の影響(600 万ユーロ)を除くと 7.6%減の 1 億 5,000 万ユーロでした。リスク関連費用は、前年同期の 3,000 万ユーロに対して 3,200 万ユーロとなりました。全体では、2015 年度上半期の CAL&F の純利益グループ帰属分は、前年同期の 4,400 万ユーロに対して 4,800 万ユーロでした(600 万ユーロの SRF 拠出額を含む)。

## 5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2015 年度第 2 四半期の法人営業及び投資銀行の純利益グループ帰属分は、8,200 万ユーロとなりました。ローン・ヘッジ(+1,600 万ユーロ)及び DVA running の影響(+3,600 万ユーロ)を修正再表示し、リスク関連費用における訴訟の追加引当金(-3 億 5,000 万ユーロ)の影響を除くと、当四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比 8.3%減の 3 億 7,200 万ユーロとなりました。ファイナンス事業は、修正再表示した純利益グループ帰属分に 2 億 1,300 万ユーロ寄与し(2014 年度第 2 四半期は 2 億 4,200 万ユーロ)、また、資本市場及び投資銀行部門は 1 億 5,900 万ユーロ寄与しました(2014 年度第 2 四半期は 1 億 6,400 万ユーロ)。

2015 年度上半期の法人営業及び投資銀行の純利益グループ帰属分は、4 億 200 万ユーロとなりました。ローン・ヘッジ(+1,300 万ユーロ)及び DVA running の影響(+4,300 万ユーロ)を修正再表示し、リスク関連費用における訴訟の追加引当金(-3 億 5,000 万ユーロ)の影響を除くと、当上半期の純利益グループ帰属分は、単一破綻処理基金(SRF)への 7,700 万ユーロの拠出分を含めて 6 億 8,800 万ユーロとなりました。ファイナンス事業は、修正再表示した純利益グループ帰属分に 3 億 9,900 万ユーロ寄与し(2014 年度上半期は 4 億 2,100 万ユーロ)、また、資本市場及び投資銀行部門は 2 億 8,900 万ユーロ寄与しました(2014 年度上半期は 2 億 4,700 万ユーロ)。

非継続事業は、現時点で資本市場及び投資銀行又はファイナンス事業に含まれており、また、SFS (仕組み金融ソリューション)は、2015 年 1 月 1 日にファイナンス事業から資本市場及び投資銀行への移行が行われました。更に、ファイナンス事業の範囲内で、グローバル・コモディティ・ファイナンスは、国際貿易・取引銀行部門の創設という状況下で、2015 年 6 月 30 日(同年 1 月 1 日に遡及して発効)に商業銀行の仕組み金融部門へと移行が行われました。これに従って、2014 年度のデータは修正再表示されました。

## CA-CIB の合計(非継続事業を含む)

((in millions of euros)	Q2-15	Q2-15*	H1 -15	H1-15*	Change Q2*/Q2**
Revenues	1,289	1,207	2,514	2,426	+7.8%
<i>o/w Financing activities</i>	611	586	1,159	1,138	+2.4%
<i>o/w Capital markets and investment banking</i>	678	621	1,355	1,288	+13.4%
Operating expenses excl. SRF	(578)	(578)	(1,209)	(1,209)	+7.8%
Impact SRF	3	3	(77)	(77)	-
<b>Gross operating income</b>	<b>714</b>	<b>632</b>	<b>1,228</b>	<b>1,140</b>	<b>+8.3%</b>
Cost of risk	(384)	(34)	(465)	(115)	(32.3%)
<b>Operating income</b>	<b>330</b>	<b>598</b>	<b>763</b>	<b>1,025</b>	<b>+12.1%</b>
Share of net income of equity-accounted entities	(45)	(45)	19	19	nm
Net income on other assets	-	-	1	1	nm
<b>Income before tax</b>	<b>285</b>	<b>553</b>	<b>783</b>	<b>1,045</b>	<b>(4.3%)</b>
Tax	(201)	(172)	(372)	(341)	(0.6%)
Net income from discontinued or held for sale operations	(1)	(1)	(1)	(1)	nm
<b>Net income</b>	<b>83</b>	<b>380</b>	<b>410</b>	<b>703</b>	<b>(8.1%)</b>
Non-controlling interests	1	8	8	15	+3.6%
<b>Net income Group share</b>	<b>82</b>	<b>372</b>	<b>402</b>	<b>688</b>	<b>(8.3%)</b>

\* 収益におけるローン・ヘッジと DVA running の影響、及び 2015 年度のリスク関連費用における訴訟の追加引当金について修正再表示。ローン・ヘッジ、DVA running、FVA Day1、及び CVA/DVA 手法の変更(2014 年度第 2 四半期)について修正再表示。

2015 年度第 2 四半期の法人営業及び投資銀行の収益は、堅調な事業推移と為替のプラス効果が寄与して、前年同期比 7.8%<sup>1</sup>増の 12 億 8,900 万ユーロとなりました。

2015 年度第 2 四半期のファイナンス事業の収益は、前年同期比 2.4%増の 6 億 1,100 万ユーロ(ローン・ヘッジの影響を除くと 5 億 8,600 万ユーロ)を記録しました。これは、恒常為替レートでは安定を維持しており、2014 年度第 2 四半期に計上された 2 つの特殊要因(エクスポージャーに対する回復とローンポートフォリオの減損)を除外したものです。

2015 年度第 2 四半期のストラクチャード・ファイナンスは、特にエネルギー・インフラ部門での活発な営業活動と為替のプラス効果を反映して、前年同期比 14.6%増を達成しました。

クレディ・アグリコル CIB は、航空機ファイナンス部門で引き続き世界第 1 位を維持しました(出典: Air Finance Database)。また、西ヨーロッパ圏での欧州レバレッジド・ファイナンスの主幹事業務では第 5 位から第 1 位に上昇しました(出典: トムソン・ファイナンシャル)。更に、2015 年ユーロマネー・アワード・フォー・エクセレンスにおいて「ベスト・インフラストラクチャ・ハウス」賞を授与されました。

<sup>1</sup> ローン・ヘッジ及び DVA running の影響について修正再表示、また、FVA Day1 及び 2014 年度第 2 四半期の CVA/DVA 手法の変更について修正再表示。

当四半期の商業銀行部門の収益は、それほど好ましくない経済環境を理由として、前年同期比 8.2% 減となりました。石油価格の下落によってコモディティ・ファイナンスに悪影響が及び、また、金利が非常に低いことで、借り手は債券による資金調達に方向転換しました。

クレディ・アグリコル CIB は、その優れたディストリビューション・ケイパビリティによって、シンジケーション活動での好ましい地位を確認しました。クレディ・アグリコル CIB は、フランスのシンジケーション部門で主導的地位を維持すると共に、中南米では第 8 位から第 3 位に飛躍しました。また、EMEA 圏での法人向けローンシンジケーションで第 6 位から第 3 位に上昇しました(出典:トムソン・ファイナンシャル)。

2015 年度第 2 四半期の**資本市場及び投資銀行部門**の収益は、6 億 7,800 万ユーロとなりました。DVA の影響を除いた収益は、困難な市場環境の中で、前年同期比 13.4%増の 6 億 2,100 万ユーロを記録しました。

当四半期の債券による収益は、好調だった前四半期を下回りますが、これまでの四半期を上回る 5 億 3,500 万ユーロとなりました。これをけん引したのは、外国為替、金利デリバティブ、資金取引の分野での好調な業績でした。この業績は、不安定な市場環境(ソブリン債市場での緊張とギリシャ情勢)の中でソブリン債と新発債券市場が不振だったことで低迷しました。当四半期の投資銀行部門の収益は、特に M&A 市場において好調だった前年同期を上回る 8,600 万ユーロを記録しました。

クレディ・アグリコル CIB は 2015 年 6 月 30 日現在、債券発行ランキングで順位を上げました。目下のところ、国際機関のユーロ建て債券発行で世界第 1 位を占め、ソブリン債、国際機関債券、及びユーロ建てスープレナショナル債券の発行では世界第 7 位から第 3 位へと順位を上げたほか、全てのユーロ建て債券を合わせると世界第 5 位にランクされています(出典:トムソン・ファイナンシャル)。更に、クレディ・アグリコル CIB は、グリーンボンドの発行ではトップスリー(第 2 位)に数えられます(出典: CACIB)。

2015 年 6 月末現在の最大損失予想額(VaR)は、変動の激しい(但し、抑制が効いた)市場環境を理由に同年 3 月末時点での 1,000 万ユーロ、2014 年 6 月 30 日時点での 400 万ユーロに対して 1,300 万ユーロとなりました。

**法人営業及び投資銀行部門**の 2015 年度第 2 四半期の**営業費用**は、SRF を除いて前年同期比で 7.8%増の 5 億 7,800 万ユーロとなりましたが、恒常為替レートでは安定していました(+0.1%)。

**リスク関連費用**は非常に低く抑えられ、2015 年度第 2 四半期は 3,400 万ユーロの費用に、訴訟の追加引当金として 3 億 5,000 万ユーロが加えられました。

2015 年度第 2 四半期の**持分法適用会社からの利益シェア**は、前年同期の+4,600 万ユーロに対して-4,500 万ユーロとなりました。この結果は、バンク・サウジ・フランジの好業績(当四半期で+6,500 万ユーロの寄与)を含んでおり、また、UBAF とエリプソ(欧州住宅ローンポートフォリオを有するストラクチャ)の根本的な経済見通しの悪化を反映した 2 件の持分投資の減損を-1 億 1,000 万ユーロ相殺しました。

**2015 年度上半期**の経済・金融環境は、大手企業及び投資銀行にとっては変動が激しい状況が続きました。特に量的緩和に伴う変動性の復活から恩恵を受けた第 1 四半期が終わると、4 月末時点で金

利が上昇傾向に転じて、当四半期は若干引き締められました。金利上昇は、ギリシャの債務状況に再び関心が集まることで持続しました。こうした状況下で、法人営業及び投資銀行部門は、好調だった第1四半期の後に、DVAの影響とローン・ヘッジを除いて前年同期比 15.3%増(恒常為替レートでは7.1%増)の収益を達成して、この傾向を維持しました。

9,200万ユーロの非経常利益を生み出した2014年度上半期の個別エクスポージャーと(2014年度には非継続事業で計上された)6,200万ユーロのローンポートフォリオの減損の修正再表示後には、ファイナンス事業の収益は、ストラクチャード・ファイナンスによって支えられて恒常為替レートで2%増となりました。

資本市場及び投資銀行部門の収益は、変動の激しい市況を利用して、恒常為替レートで18%の伸びを記録しました。

**営業費用**は、2015年の単一破綻処理基金(SRF)への初回拠出を含めて、13.5%増の7,700万ユーロとなりました。この項目を除くと、営業費用は、恒常為替レートで0.2%増となり引き続き抑制されました。

訴訟の追加引当金を除くと、2015年度上半期のリスク関連費用は、1億1,500万ユーロと低い水準に抑えられました。

**持分法適用会社からの利益シェア**は、バンク・サウジ・フランジの好業績を反映し、関係企業(UBAFとエリプソ)の根本的な経済見通しの悪化を反映した2件の持分投資の減損を相殺しました。

## 6. コーポレート・センター

2015 年度第 2 四半期には、Banque Française Commerciale Antilles Guyane (BFCAG) が、コーポレート・センターから LCL に移行しました。

(in millions of euros)	Q2-15	Change Q2/Q2	H1-15	Change H1/H1
<b>Revenues</b>	<b>(405)</b>	<b>(29.3%)</b>	<b>(914)</b>	<b>(19.5%)</b>
<i>o/w capital and liquidity management*</i>	(628)	+33.6%	(1,204)	+10.9%
<i>o/w net costs allocated to equity stakes funding and to debt</i>	(345)**	(11.3%)	(673)**	(15.2%)
<i>o/w Switch</i>	(186)	-	(372)	-
<i>o/w issuer spreads</i>	229	nm	199	nm
<i>o/w other</i>	(6)	nm	91	(61.4%)
Operating expenses excl. SRF and new taxes ***	(206)	(4.8%)	(417)	(3.0%)
Impact SRF and new taxes ***	-	-	(72)	-
<b>Gross operating income</b>	<b>(611)</b>	<b>(22.6%)</b>	<b>(1,403)</b>	<b>(10.4%)</b>
Cost of risk	145	x11.3	159	+69.9%
<b>Operating income</b>	<b>(466)</b>	<b>(40.1%)</b>	<b>(1,244)</b>	<b>(15.5%)</b>
Share of net income of equity-accounted entities	-	nm	(1)	nm
Net income on other assets	(6)	x12.8	(6)	nm
<b>Income before tax</b>	<b>(472)</b>	<b>(39.3%)</b>	<b>(1,251)</b>	<b>(12.7%)</b>
Tax	257	(20.3%)	541	(7.4%)
<b>Net income</b>	<b>(215)</b>	<b>(52.8%)</b>	<b>(710)</b>	<b>(16.4%)</b>
Non-controlling interests	22	(7.1%)	49	(13.9%)
<b>Net income Group share</b>	<b>(237)</b>	<b>(50.5%)</b>	<b>(759)</b>	<b>(16.2%)</b>
<b>Net income Group share excl. issuer spreads</b>	<b>(385)</b>	<b>+18.7%</b>	<b>(888)</b>	<b>+23.3%</b>
<b>Net income Group share excl. issuer spreads, SRF and new taxes***</b>			<b>(825)</b>	<b>+14.6%</b>

\* 中央機関及びトレジャラーとしての資本、金利、流動性、及び債券運用のコスト

\*\* 調達類型（流動性、資本、債券）別の資金調達コストの配分見直しについて 2014 年度に修正再表示。

\*\*\* 2015 年度第 1 四半期については、SRF(-4,600 万ユーロ)、ECB 及び SRB の新たな税金(-400 万ユーロ)、新たに納付義務が生じた C3S の税金(-2,200 万ユーロ)。

2015 年度第 2 四半期のコーポレート・センターの収益は、2014 年度第 2 四半期の-5 億 7,300 万ユーロに対して-4 億 500 万ユーロとなりました。収益には、2014 年度第 2 四半期の-2 億 3,900 万ユーロに対して+2 億 2,900 万ユーロの発行体スプレッドが含まれています。

中央機関及びトレジャラーとしてのクレディ・アグリコル S.A.の資本、金利、流動性及び債券管理のコ

ストは、2015 年度第 2 四半期に前年同期比で 33.6%増加しました。この増加は主に、2014 年度第 2 四半期の低い債券のベースコストと ALM ポジションの手仕舞いに関連する大きなプラス影響の統合によるものです。持分投資に関連する負債と新しい配分ルールに基づく負債のコストは、前年同期比で 11.3%改善する一方で、Switch のコストは-1 億 8,600 万ユーロで安定を維持しました。

2015 年度第 2 四半期の営業費用は、今年度に規制当局の検査にかかわる費用がないこと(2014 年度はストレステストと AQR)と BFCAG に関連するコストのエグジットを主に反映して、前年同期比 4.8%減となりました。

2015 年度第 2 四半期のリスク関連費用は、Switch 保証メカニズムの発動に関連する 1 億 7,300 万ユーロのプラス影響を含めて、+1 億 4,500 万ユーロとなりました。

ユーラゼオ株に交換可能なクレディ・アグリコル S.A.の債券の公正価額の変動に伴う影響は、2014 年度第 2 四半期の 2,300 万ユーロのプラス影響に対して、当四半期については事実上ゼロでした (+100 万ユーロ)。

全体では、コーポレート・センターの純利益グループ帰属分は、2014 年度第 2 四半期の-4 億 8,000 万ユーロに対して-2 億 3,700 万ユーロでした。発行体スプレッドについて修正再表示した純利益グループ帰属分は、-3 億 8,500 万ユーロとなりました。

**クレディ・アグリコル・グループ連結決算**

2015 年 6 月末現在の当グループの顧客ローン残高は 7,300 億ユーロでした。資金調達に関しては、オン・バランスシートの顧客預金は、およそ 6,430 億ユーロに達しました。

<i>(in millions of euros)</i>	Q2-15	Change Q2/Q2	H1-15*	Change H1/H1
<b>Revenues</b>	<b>8,257</b>	<b>+9.0%</b>	<b>16,292</b>	<b>+6.0%</b>
Operating expenses excluding SRF	(4,806)	+2.8%	(9,907)	+2.3%
SRF impact	-	-	(229)	-
<b>Gross operating income</b>	<b>3,451</b>	<b>+18.9%</b>	<b>6,156</b>	<b>+8.3%</b>
Cost of risk	(963)	+30.1%	(1,646)	(0.1%)
<b>Operating income</b>	<b>2,488</b>	<b>+15.1%</b>	<b>4,510</b>	<b>+11.7%</b>
Share of net income of equity-accounted entities	5	nm	118	nm
Net income on other assets	5	+65.5%	1	(61.5%)
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
<b>Income before tax</b>	<b>2,498</b>	<b>+62.0%</b>	<b>4,629</b>	<b>+31.7%</b>
Tax	(886)	+30.7%	(1,676)	+27.5%
Net income from discontinued or held for sale operations	(1)	(52.2%)	(18)	nm
<b>Net income</b>	<b>1,611</b>	<b>+87.0%</b>	<b>2,935</b>	<b>+33.1%</b>
Non-controlling interests	111	+42.8%	207	+23.1%
<b>Net income Group share</b>	<b>1,500</b>	<b>+91.4%</b>	<b>2,728</b>	<b>+34.0%</b>

\* 課徴金の会計処理に関する IFRIC21 の影響について修正再表示。

2015 年度第 2 四半期のクレディ・アグリコル・グループの収益は、2014 年度第 2 四半期比 9.0%増の 82 億 5,700 万ユーロとなりました。事業活動とは無関係の項目(コーポレート・センターで計上された発行体スプレッド、DVA running、及び法人営業及び投資銀行部門のローン・ヘッジ)は、前年同期の -4 億 3,000 万ユーロに対して+2 億 8,700 万ユーロとなりました。

2015 年度第 2 四半期の営業費用は、前年同期比で 2.8%増となりました。

2015 年度第 2 四半期のリスク関連費用は、訴訟に対する追加引当金(3 億 5,000 万ユーロ)によって影響を受けました。この項目を除くと、経常的なリスク関連費用は、前年同期比 26.1%減の 6 億 1,300 万ユーロとなりました。これは、残高の 30 ベーシス・ポイント(2014 年度第 2 四半期は 37 ベーシス・ポイント)に相当します。この減少は特に、フランスのリテール・バンキング部門(LCL)と消費者金融(特にアゴス・デュカト)で顕著でした。

全体では、純利益グループ帰属分は、前年同期の 7 億 8,900 万ユーロに対して 91.4%増となる 15 億ユーロでした。事業活動とは無関係の個別項目の影響を除いた当四半期の純利益グループ帰属分は、16 億 4,700 万ユーロとなりました。なお、2014 年度第 2 四半期の数字には、BES 株の減損に関

連する-7 億 800 万ユーロの影響(純額)が含まれています。この影響分を除くと、純利益グループ帰属分は前年同期比で安定していました。

\*\*\*\*\*

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the second quarter and first half of 2015 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website [www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders](http://www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders) under "Financial reporting" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation.

**INVESTOR RELATIONS + 33 1.43.23.04.31**

Denis Kleiber	+ 33 1.43.23.26.78	Fabienne Heureux	+ 33 1.43.23.06.38
Sébastien Chavane	+ 33 1.57.72.23.46	Marie-Agnès Huguenin	+ 33 1.43.23.15.99
Aleth Degrand	+ 33 1.43.23.23.81	Aurélie Marboeuf	+ 33 1.57.72.38.05
Laurence Gascon	+ 33 1.57.72.38.63		